

会津若松市に映画館ができる条件と課題

矢口 真衣

1. 研究動機

私は、会津大学短期大学部に進学すると同時に、地元である山形県から福島県会津若松市に引っ越した。この引っ越しを機に、映画館で映画を見ることがめっきりなくなってしまった。そもそも会津若松市には映画館がないことに疑問を持った。

2. 研究背景

2.1 映画最盛期から現在

全国の映画観客数が11億2745万人と最多記録の1958年、会津若松市にも複数の映画館があった。同時期ではないが、全部で7館存在していた。中には、松竹株式会社や日活株式会社の直営の映画館も存在した。また、会津若松市内だけではなく、田島町(現 南会津町)などにも存在した。しかし、1960年代から全国的にテレビが急速に普及すると同時に、映画観客数が減少していった。観客数が減少すれば、映画館も経営が難しくなり、次々と閉館していった。

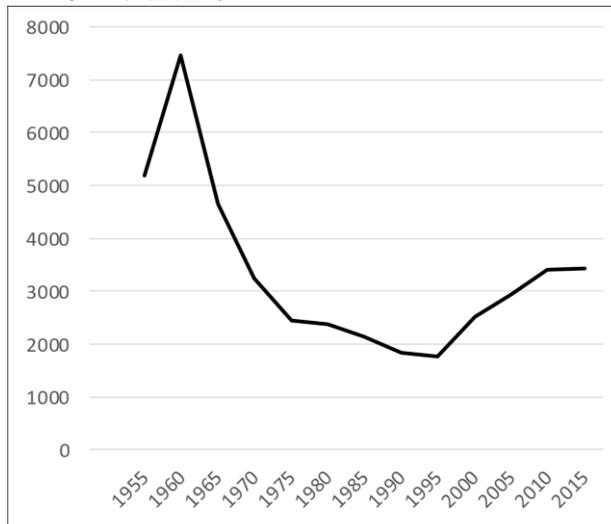
会津若松市の映画館も、観客数の減少や火災などにより、2012年にすべて閉館してしまった。現在は、映画館はないものの、会津シネマ上映実行委員会が会津若松市文化センターで、「会津新作シネマ上映会」を開催したり、あいづふるさと映画祭実行委員会が、會津風雅堂で「男はつらいよ」の山田監督や作品にゆかりのある役者さんを招いてのシリーズ作の上映会を行ったりしている。この上映会は、「男はつらいよ」の撮影監督を務めていた湯川村出身の高羽哲夫さんをしのぶために開催されており、昨年で20回目を迎えた。

2.2 会津若松フィルムコミッション

「会津若松フィルムコミッション」とは、会津若松市での映画、ドラマ等の撮影活動を支援する活動である。具体的には、イメージに合ったロケーションをリサーチして紹介したり、エキストラ募集やロケーション先との調整をしたり、安全対策などの援助を行っている。

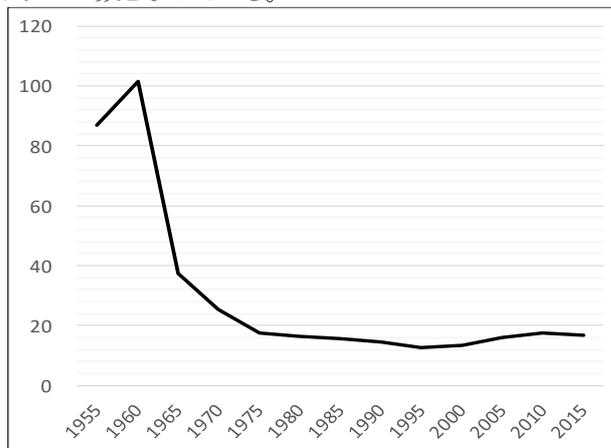
2017年のロケ実績は、全ジャンル含めて24件であり、そのうち映画の撮影は3件となっている。

2.3 日本の映画産業について



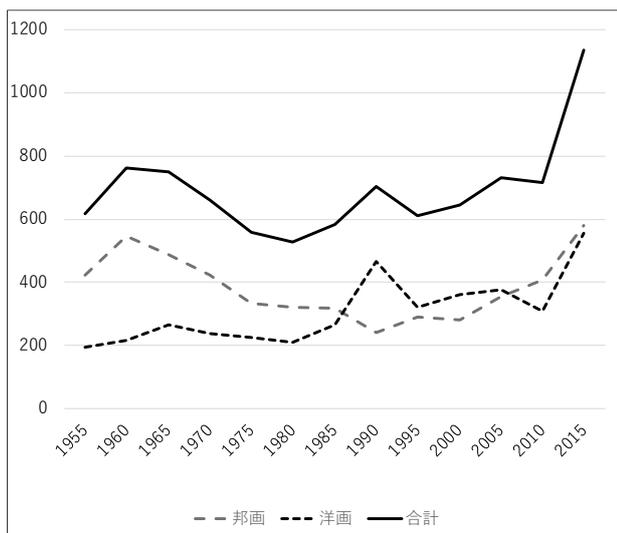
図表1 日本の映画館スクリーン数(枚)
(一般社団法人日本映画製作者連盟による日本映画産業統計[1] より矢口作成)

図表1より、日本の映画館スクリーン数は、1960年の7457をピークに1993年の1734まで減少した。かつては、映画館1館にスクリーン数1が普通であったが、同年ごろから映画館1館に複数スクリーンを有するシネマコンプレックス(以下、シネコン)が増加してきた。それにより、スクリーン数が増加し始め、2015年には3437にまで増えた。うち約87%の2996がシネコンのスクリーン数となっている。



図表2 年間入場者数(万人)
(一般社団法人日本映画製作者連盟による日本映画産業統計[1] より矢口作成)

図表2の年間入場者数は、1958年の1,127,452人をピークに減少し、1980年ごろからは横ばいである。



図表3 年間映画公開本数(本)
(一般社団法人日本映画製作者連盟による日本映画産業統計[1] より矢口作成)

図表3によると、近年映画の公開本数が増加していることがわかる。

2.4 福島県と山形県の比較

	人口(人)	映画館数(館)	スクリーン数(枚)
福島県	1,859,220	5	35
山形県	1,088,388	8	56
会津若松市	120,660	0	0
新庄市	36,894	0	0

図表4 福島県と山形県の人口[2] [3]、映画館数、スクリーン数[4] [5] (矢口作成)

図表1のように、人口は福島県のほうが山形県よりも約80万人も多いが、映画館数、スクリーン数は明らかに少ないことがわかる。

山形県は100万人当たり7.35館、福島県は2.69館である。山形県と福島県の間に差があることがわかる。

3. 先行研究

3.1 石垣 (2010)

シネコンが増加している中で、「ミニシアター」という小規模な劇場、また大手の映画会社・配給会社の系列ではない劇場も開館している。石川県金沢市や広島県尾道市などが例に挙げられる。特に尾道市は、数多くの映画の舞台として利用され、「映画の街」である。1970年代には市内に10館も映画館があったが、2001年に最後の映画館が閉館してしまい、市から映画館がなくなった。しかし、2004年、「尾道に映画館をつくる会」を発足し、定期的に自主上映会を開催し始めた。そして2006年、NPO法人シネマ尾道が設立され、2008年、最後に閉館した映画館の建物を借り、「シネマ尾道」が開館した。

3.2 岩鼻 (2012)

21世紀に入る頃から、中心市街地に小規模な映画館を設置して、人の流れを呼び戻そうとする試みが始まり、開業した映画館である鶴岡まちなかキネマを取り上げ、農学部学生およびまちなかキネマ観客に対してアンケートを実施し、開業からの利用者の増加や、学生が映画館で映画を見る機会の減少などの結果が得られた。農学部学生は、見たい映画が上映されていないという理由も含め、新しくオープンしたまちなかキネマよりも、三川町にあるシネコンのほうをよく利用していることも判明した。

4. 研究目的

福島県は、山形県よりも人口が多く、ましてや会津若松市は観光都市としても有名で、人口も12万と少ないわけではない。さらに、多数の高等学校、大学、短期大学というように学生も多く、映画館があってもおかしくない市である。

4.1 研究目的1

福島県よりも人口が少ないにもかかわらず、山形県に映画館が多いことは、映画に対する県民の意識の差があるのか検証することを研究目的1とする。

4.2 研究目的2

会津若松市にも映画館が複数あり、映画が盛んだった時代もあったことを知り、なぜその映画館はなくなってしまったのか、復活しなかったのかなどを調査し、会津若松市に映画館ができる条件と課題を明らかにすることを研究目的2とする。

5. 研究方法

5.1 研究方法1

会津大学短期大学部(以下、会津短大)、山形県立新庄南高等学校(以下、新庄南高校)、福島県立葵高等学校(以下、葵高校)へのアンケート調査。

5.2 研究方法2

会津若松市の映画館がにぎわっていた当時を知る新城猪之吉氏への取材。

6. 仮説

福島県は人口が多いにもかかわらず、映画館数、スクリーン数が少ない。その要因として、住民の映画に対する意識に差があるのではないかと考えた。山形県民の方が映画を好きでよく見るため、映画館が多くあるという仮説を検証する。

7. 研究結果

7.1 研究方法1によるアンケート結果

2018年11月に会津短大1、2年生を対象に実施した。39名の回答が得られた。質問内容は以下のとおりである。

Q1.映画は好きですか

- Q2.短大入学後に映画館で映画を見ましたか
- Q3.この映画館で観ましたか
- Q4.短大入学前と入学後で映画館に行く頻度は変わりましたか
- Q5.地元はどこですか
- Q6.会津若松市に映画館ができてほしいと思いますか

結果は、

- ・会津若松市に映画館ができてほしいと思う人が9割
- ・短大に進学してから映画館で映画を見る頻度が「低くなった」が4割、「変わらない」が半数だった。「増えた」が1割いた。

しかし・・・

- ・回答数が少ない
- ・地元の違いと映画への関連付けができなかった
- ・比較対照するものがない
- ・山形と福島が関連していない



山形県と福島県の高校生で比較し、意識の違いがあるかどうかを見つけることにした。

2019年1月に新庄南高校の1年生と2年生3クラスずつ計6クラス240名、葵高校の1年生と2年生3クラスずつ、計6クラス240名を対象にアンケートを実施し、それぞれ218名、計436名の回答が得られた。質問内容は以下のとおりである。

- Q1.映画は好きですか
- Q2.どんな映画が好きですか
- Q3.1年間で何回映画館に映画を観に行きますか
- Q4.よく行く映画館はどこですか
- Q5.よく行く映画館までの移動手段は何ですか
- Q6.よく行く映画館までの所要時間はどのくらいですか
- Q7.最寄りの映画館はどこですか
- Q8.最寄りの映画館までの所要時間はどのくらいですか
- Q9.新庄市(会津若松市)に映画館ができてほしいと思いますか
- Q10.誰と観に行きますか
- Q11.映画館以外ではどのような手段で映画を見ますか(例: DVD、テレビ、Netflix、etc...)
- Q12.新庄市(会津若松市)にあったらいいなと思う商業施設はありますか

Q3.4.6.9～11で結果に差がみられた

Q3・・・両高校2回が最多回答数

平均回数・・・新庄南高校→3.82回

葵高校→1.98回

0回・・・新庄南高校→15人

葵高校→30人

Q4・・・新庄南高校→県外1名 他すべて県内

(特に、2014年3月に山形県天童市にオー

ブンしたイオンモール天童内のイオンシネマ天童の利用が非常に多かった)

葵高校→郡山テアトルが最多回答数

米沢、新潟、那須などの県外も多

かった

Q6・・・両高校とも1時間が最多回答数だったが、

新庄南高校→1時間未満

葵高校→1時間半～2時間

という回答が次に多かった

Q9・・・「思わない」新庄南高校→32人

葵高校→19人

Q10・・・「1人」新庄南高校→18人 葵高校→6人

Q11・・・総数(アプリやインターネット利用者数)

新庄南高校→350人(51)

葵高校→329人(39)

以上の6項目以外に、どちらの高校も好きな映画のジャンルが、1位アニメ、2位恋愛、3位アクションという結果だったが、ほかにも様々なジャンルが挙げられていた。

さらに、映画館以外で市内にできてほしい商業施設はあるかという質問に対して、どちらの高校も「大型ショッピングセンターやイオンモール」という回答が多かった。



シネコンへの支持がある

7.2 新城猪之吉氏への取材

会津若松市で映画館が栄えていた当時を知る関係者への取材として、会津若松市で1850年から日本酒を作り続けている末廣酒造株式会社の7代目社長の新城猪之吉氏に取材を行った。新城氏は「あいづふるさと映画祭」の実行委員長を務めており、会津若松市の映画事情に詳しいと考え、取材を依頼した。

新城氏が小中学生の頃は、「映画1回の料金は50円で、入れ替えなしのシステムだった。また、当時はラーメンが1杯20円であり、お小遣いをためて1回50円の映画を見に行っていた。映画館では、子供を対象に抽選会なども行われ、子供から大人、お年寄りまで、たくさんの方が楽しんでいた。映画館は毎日満員で、立ち見をすることも多かった。当時の娯楽といえば映画を見ることがパチンコしかなかった」と話していた。

あいづふるさと映画祭についてのお話も伺った。東日本大震災があった年には、会津若松市へ避難された方々を元気づけようと、文化センターでの上映会に招いたりした。

会津若松市には、新城氏のように、映画に対して並々ならぬ思いがある方もいるということが分かったが、映画館を再建しないのかと質問したところ、「資金があればシネコンを誘致したい」と話していた。



新城氏のように映画に関心の強い人もいる

新城氏のご厚意により、末廣酒造株式会社社員へのアンケートが実施でき、35名の回答が得られた。質問内容は葵高校と同じである。

結果は、

- ・葵高校と同様に、県外の映画館を利用していた
特に米沢市のイオンシネマが最多回答数
- ・9の会津若松市に映画館ができてほしいと思いますかという質問の回答の「思う」の割合は
葵高校89%、末廣酒造77%だった
- ・他に特徴的な回答はなかった

8. 分析

8.1 アンケート結果の分析

新庄南高校のほうが、1年間に映画館で映画を見る回数や、1人で映画を見に行く人数、映画をDVDやインターネットを利用してみている人数が多いことから、映画に対する関心が高いことが分かった。しかし、映画館が自分の市にできてほしいと思わない人が葵高校よりも多かったという結果もあり、映画館という商業施設自体は望まないことも分かった。逆に、葵高校は新庄南高校よりも映画への関心は低いが、映画館などの商業施設の設置を強く望んでいることが分かった。

また、好きな映画のジャンルが多岐にわたっているため、幅広いジャンルの映画の公開が求められていることが分かった。

8.2 新城氏への取材結果

全国の流れと同様に、1960年代のテレビの普及により、会津若松市の映画館の入場者数も減少し、閉館へと至った。その後、会津若松市に映画館が再建されてはいないが、様々な団体が自主上映化をされており、映画館の再建は、資金面が課題の1つであることが分かった。

9. 結論

会津若松市に映画館ができる条件としては、学生へのアンケート結果より、イオンシネマのような、ショッピングモールとの併設が、過去のように閉館に追い込まれないための条件でもあると考える。さらに、学生でさえも好きな映画のジャンルが多岐にわたっているため、幅広いジャンルの映画が公開できるシネコンの誘致は、必須条件である。

課題は、新城氏が述べていた資金面だと考える。尾道シネマは、尾道市に映画館を復活させたいという全国の有志の募金による資金調達も行っており、会津若松市も会津若松市民だけでなく、全国から資金を募ることができれば、会津若松市での映画館会

館も実現できるのではないかと考える。

参考文献

- [1] 一般社団法人日本映画製作者連盟, 日本映画産業統計, 過去データ一覧表,
<http://eiren.org/toukei/data.html>.
- [2] 福島県の推計人口,
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11045b/15846.html>.
- [3] 山形県の人口と世帯数(推計),
https://www.pref.yamagata.jp/ou/kikakushinko/020052/tokei/copy_of_jinkm.html.
- [4] 福島県の映画館, 映画の時間,
<https://movie.jorudan.co.jp/theater/fukushima/>.
- [5] 山形県の映画館, 映画の時間,
<https://movie.jorudan.co.jp/theater/yamagata/>.
- [6] 会津若松市ホームページ,
<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/>.
- [7] 新庄市の人口, 男女, 世帯数情報,
<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/>.
- [8] 中谷 治, 昭和の映画館主 奮闘記—映写機かついで, 龍鳳書房出版, 2018.
- [9] 中村 恵二, 荒井 幸博, 角田 春樹, 図解入門業界研究 最新映画産業の動向とカラクリがよ〜くわかる本 第3版, 秀和システム出版, 2017.
- [10] 石垣 尚志, 映画文化の現状と可能性—市民映画館とミニシアターを事例に一, 目白大学人文科学研究 第6号, 2010.
- [11] 岩鼻 通明, 鶴岡まちなかキネマと中心市街地活性化, 人文地理学会大会 研究発表要旨, 2012